

## 1. 活動の概要

5月18日(金)、松江市立生馬小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。“聖武天皇と奈良の大仏”と題して、実物大の大仏パネル作成を中心とした学習活動をおこないました。

まず「生馬」という地名の由来が『出雲国風土記』に書かれていることを学習しました。「神さまが“心おだやかに、いくまず”と言ったからなんですよ」という説明に、「へえ～」と感心する声ももれていました。次に、松江市内から出土した奈良時代の土器を、自分の手で確かめてもらいます。今のお茶碗とどこが違うかな？何に使ったんだろう？という問いかけに、口々に感想を言いながら、全員が土器に触れることができました。

次に、奈良の大仏が作られた時代の歴史背景について映像を使ってお話しし、体育館のフロアいっぱいに、みんなで協力しながら大仏パネルを作ります。この体験活動を通して、大仏の大きさを実感することができました。最後に完成した大仏を観察しながら、質問タイムです。「頭のぶつぶつはなに？」「おでこのほくろみたいなものはなに？」などなど、たくさんの質問が飛び出しました。授業参観での開催で、保護者の皆さんにも楽しく参加いただきました。

## 2. 活動の様子



「生馬って歴史のある地名なんですよ」



「保護者さんも土器をさわってみましょう」



「生馬小大仏がたった8分で完成！。」



「大仏を観察してみよう。」

## 3. 子ども塾を終えて

### 1) 児童の皆さんから…

- ・本物の土器がさわれたことが心に残りました。とても重くてびっくりしました。
- ・ぼくも穴を掘って土器を発掘してみたいなと思いました。
- ・もっと奈良時代のことを知りたくなりました。
- ・大仏の手の意味や、おでこの毛の意味が知れてよかったです。

### 2) 担任の先生から…

- ・2年連続で『心に残る文化財子ども塾』を受けることができ、大変喜んでおります。保護者さんも喜んでおられました。